

第2回 河南町総合教育会議 議事要旨

日 時 平成29年2月6日(月) 15時00分～16時10分

場 所 河南町役場3階301・302会議室

出席者 町長 武田 勝 玄

町教育委員会 委員長 安 居 美千代

町教育委員会 委員長職務代理者 内 堀 裕 規

町教育委員会 委員 行 待 彩 子

町教育委員会 委員 土 井 修 市

町教育委員会 教育長 新 田 晃 之

(町職員出席者)

総務部 木矢部長、教・育部 久保部長、教育課 谷課長、こども1ばん課 湊課長

事務局 : 総合政策部 森田部長、秘書企画課 上野課長、藤木課長補佐

1 開会

(上野課長)

会議の公開について確認・・・公開とする

傍聴者確認・・・1名入場

配布資料確認

2 議事進行

(武田町長)

開会あいさつ

3 議題

○案件(1)平成29年度における教育関連の主な事業等について

(資料1「平成29年度における教育関連の主な事業等について」について、森田総合政策部長が説明。)

4 質疑等

(武田町長)

私から、ファイアジュニアの青少年消防オリンピックってあるじゃないですか、それは、2年に1回国費でヨーロッパへ子ども達行けるんですけども、うちのファイアジュニアはですね、全国で少年消防クラブは200くらいあるんですけども、そこから何チームかは予算聞いてないんですけどもそんなに多くは・・・5くらいかな？6？

(森田総合政策部長)

4だったと思います。

(武田町長)

全国で4ですから激戦なんです。激戦であるほどやり甲斐あるじゃないですか。2月の15、16、17と別件で、砂防の関係で上京するんです。そのときの15日は国会議員に挨拶回りを予定していたんですが、虎ノ門で途中下車しまして、日本消防協会の正にここの秋本さんにアポをとりまして、会ってきます。多分決まりだと思います。見ていてください。これで言うたら3万で、あとは全部国費です。子ども達も励みにもなりますね。

あとは、教育のハードは町長部局の責任ですけど、むしろ中身のソフトですね。子どもの虐待とか全部含めて、そんなもの何もかも全部含めて教育委員会の方針って大事ですね。

ハードのいろんな議論の中に、「じゃあ教育委員会どう考えてるねん」というのが先に出ます。そこは、しっかりブレない気持ちでやっていかないといけない。それは、細部にいけばいろんな意見が当然出ます。保護者でもそれぞれの保護者によって皆意見が違うだろうし、それをやっぱりこうだというしっかりしたものがないといけない。

(内堀委員)

質問という程のことではないんですけど、我々、教育委員会定例会を毎月させていただいている中で、今、説明をしていただいた中の部分では大半は我々把握させていただいているつもりです。

その中で、防犯カメラの部分とか、正直教育委員会と共有できてない部分も確かにこの中に含まれているんですけど、最後に事業費がいろいろかかるというお話をいただきましたけど、我々が「じゃあ、これ削れば」というようなことを言える立場でもないですし、何を質問すべきなのが逆に見えません。

(武田町長)

教育委員会からの議論と我々はまたちょっと違うんです。我々、財政も持ちながら、全体を見ながらやっていくじゃないですか。そこで、こういう要求をしたけれども途中で減らされたら、それは何でだ？そんなものもあるじゃないですか。

例えば、29年度の、目の前で決めたことですけど、教育マターというか、随分先まで命題としてあるじゃないですか。例えば32年度には、プログラム教育があるだろうし、来年度は英語かな。ごく近望という感じでは富中の入試がもう今年ですか？もう終わりました？

(内堀委員)

終わりました。

(武田町長)

あれは6.0何倍ですね。そういうものに対する親御さんの関心というのは遠望とは違いますよ。そういうことに対して我々河南町はどうしていくのか、そんなのも多分話し合いをされているだろうし。そんなこと我々はあまりわかりませんが。

(新田教育長)

防犯カメラを設置いただいて、安心安全のために、それぞれの箇所に設置されていると思うんですけども、地区設置の防犯カメラと町設置の防犯カメラの2種類があるんですが、2種類の違いをちょっと説明いただきたいのと、設置場所というのは公開であるならば、今どの場所に付いているかわかるような資料があるのか、その辺2点お願いします。

(武田町長)

資料あれば、今でも誰かに言うてコピーして、この会議終わるまでに配ってもらったらいいい。

(森田総合政策部長)

地区で設置していただいています防犯カメラですが、3/4 補助ということで、カメラ1台あたり20万円程度かかるというふうに今考えています。ちょっと場所場所によってはそれ以上かかるものもあるかと思うんですけども、3/4 ということで15万円を限度に1台あたり補助していると。高補助率で一生懸命頑張っていただこうということです。このカメラは、あくまで地区が設置するというので、3/4 の残りの1/4 を地区がお金を出さないといけないということになっていますので、やはり自治会とか村の中の地区内に付けられるのが主でございます。

安全安心ということであればですね、その地区外とか地区と地区の間にお家が建ってないとかなんかは、当然「地区が設置するのはなんでや」ということになってまいります。そこになんで1/4 もお金出して、あと残り維持管理もしていかないといけないのかという議論がどうしても自治会とか村の方で出てくると。ですので、家が建っているとこの地区と家が建ってる地区の間とか、ここが通学路になっていたら当然あった方がいいと。そういうところを中心に町の方は設置しています。

27年度は10か所の設置ですが、河南町と富田林、太子、それから千早赤阪村との境界付近、そういうところはどうしても地区外になってまいりますので、そういうところを中心に10ヶ所にカメラを設定したと。28年度も主に境界付近で27年度よりももう少し中に入ったところで10か所に付ける予定で今進んでおります。

29年度も場所的にはそういうところを中心にあと10台は付けたいと。合計来年度末で30台くらいになるかなというふうに考えています。

大体、地区が付けていただくカメラは赤外線カメラもありますし、いろんなカメラがあるんですが、よくテレビカメラで撮っているようなものの小さい版。町の方が付けていきますのが「安心くん」というもので、警察と協議いたしまして、警察の方は富田林警察がありまして、そこに4市町村があります。富田林、太子、千早、河南の4つがありますけども。それと、協定を結んで、これは新聞にも載っていたと思うんですけども、安全安心のために4市町村とも警察と協議して防犯カメラ付けていこうという。それで決めたのが「安心くん」という白いもので半分の丸い半円型のものを電柱のところに付いてる、あれが防犯カメラです。

防犯カメラの位置はあんまり公表したくないというのがあります。というのは、そこに付いているということによって、罪を犯す人がそこに付いているから避けて通るとかありまして、どこにどうなのが付いているとかいう公表は、積極的にはしていくつもりはないです。但し、見ていただいたらここに付いているというのは格好で分かると思います。

今お配りさせていただきましたのは、地区の協力を得まして付けている台数の地区別の数でございます。大宝地区が一生懸命付けていただいて今年度末には42台が付くというふうになっています。どこの地区もやはり安全安心に対しては危機感を持っていただいております。付けていかないといけないというような前向きなお話はさせていただきます。まあ、しかしながら1/4の裏負担というのがありますし、維持管理の方法は誰がしていくのかという問題もありまして、その辺の協議が整ったところから、順次付けていただくという、このような状況でございます。

(内堀委員)

ちょっとそれに付随して。たくさん防犯カメラが、更に河南町の方で設置していただけるということ有難いと思うんですが、地区も含め町の設置も含め、どのようなときに情報公開をいただけるんでしょうか。

(森田総合政策部長)

カメラの映像ですか。

(内堀委員)

はい。

(森田総合政策部長)

カメラの映像は警察とかそういうところからの依頼があったものだけをお見せするというようにしています。

(内堀委員)

ということは、事件が起きてからしか防犯カメラを活用できないという解釈でいいですか。

(森田総合政策部長)

防犯カメラそのものは、一応抑止ということで考えていますので。

(内堀委員)

なぜそんな質問をしたかという、たまたまなんですけど、うちのところに会社に防犯カメラが付いていまして、なぜか部品が落ちてる。うちの入口のところに。ガラスとかウインカーとか散らばって、なんで落ちてるんだろうと。うちは当然、自社で持っているトラックあるいは乗用車全部調べたけれども、当たった気配もなければ、割れてるもちろん気配もない。うちじゃない。関係ないどこから飛んできたんだろうと、初めはそう思ったんですけど、なんかこう異常に気になったので、いつから落ちていたとか社員とかにいろいろ聞いて、映像データを見たんですね。そしたら、結果ひき逃げだったんです。で、警察に電話して、「ひき逃げ違うかと。情報入っているか。」と聞いたら、「いや、入ってない。」「じゃあ、ちょっと映像見に来てくれ。」ということで、警察に来てもらって、最終的にはひき逃げだったんです。まあ、一応犯人と言ってしまってもいいんですけど、怪我されている方もおられて、結局は解決には至ったんです。まあ、結果の話なんですけど。たまたま映像があったから、警察が見に来てくれますけど、それが例えばうちにデータがない、たまたま町あるいは地区が付けている防犯カメラがある。「ここに部品落ちている」と言っても映像がない限り、警察は来ないじゃないですか。それだったら防犯カメラがせっかく付いているにも関わらずあまり円滑に使われないんじゃないのという部分もある。

かと言って、何でもかんでも情報公開する訳にはもちろんいかないんですけど、ちょっとその辺は柔軟に考えていく方向は考えられないのかなというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

(森田総合政策部長)

まあ、こういう事例があったんですけども、捜査当局が来た時に公開するという、公開ということをごさいまして。あとは、カメラの管理者というのを地区毎に決めていただいて、各地区の管理者は見ることはできます。でも、それを公開はできないですよ。こういう形になります。

(内堀委員)

例えば僕が、車がちょっと当てられたかもしれん。たまたまそこにカメラがあるから写ってないか、と聞きにいったら教えてくれるんですか。見せてくれるんですか。という話です。単純なことです。

例えば子どもが歩いているときに、変な人がたまたまうろいついていると。結局、警察というのは被害届が出てからしか動かないんですよ。でも、どの人が怪しいのか怪しくないのかという判断は、ある意味子どもであり保護者は当然見たいですよ。どんな人なのというか、この人だったら知っている人だとか、子どもは知らないけど、当然地域の人には知っているというのはあるし、不審者扱いするのもおかしいし、そういうのは見せてもらえるのかということです。それを

見せてもらえないのだったら、結構、有効範囲が狭くなるのじゃないのかと思います。

(森田総合政策部長)

ちょっとそこは難しい点なんですけども、管理者が当然見るということは出来るんですけども、それを一般の人に全て見せるという訳じゃないということをお申し上げていまして、いついっかどんなことがあったとか、カメラが付いていると、中身をちょっと見せてくれというのは難しいかも知れないけれども、見てほしい、チェックしてくださいということは管理者には依頼はできるかとは思っています。

先日あった事例なんですけども、持尾の方で行方不明になりました。どこへ行ったかわからない。「今日一晩どこへ行ったかわからないし、明日朝から消防団と地域の人で捜してもらえないか」という段取りをしてその日帰られたんですけど。地区で、持尾の方に防犯カメラが2か所程付いているんです。2か所といっても全然数は少ないですよ。少ないですけども、そこは管理者が地区やからちょっと見よかということで見たら、何時何分頃通られたというような形跡があったと。そこを捜しに行かれたら見つかったと。こういう事例もありますんで、地区地区で管理者の範疇の中でやっていただけたらいいかなと思っています。

(内堀委員)

言葉の解釈が違ったかもしれない。公開という意味ではなくて、みんなに情報を見せてくれるのではなくて、

(森田総合政策部長)

はい。わかりました。

(内堀委員)

例えば、部長とこに、ここの町の設置のカメラのところで、例えばこんなことが起きた。だからちょっとこの中を僕に見せてくれなくてもいいから、ちょっと不審関係を見てももらえませんかというお願いに対しては対応してもらえるということですか。

(森田総合政策部長)

まあ、臨機応変にそれは対応できるかな・・・

(内堀委員)

もちろん、それは内容にもよるけど・・・

(森田総合政策部長)

はい。

(内堀委員)

はい、わかりました。それなら全然問題はないです。

(森田総合政策部長)

まあ、付いているので、それを利用しないというのも。

(武田町長)

抑止力にならない。見ないというのは抑止力にならない。

(内堀委員)

もちろん、付いているというだけで、例えば何かをしようと思っている人に対してのブレーキには当然なるとは思いますけど。

(森田総合政策部長)

画像は10日から2週間程度しか録画の・・・

(内堀委員)

地域が持つておられる型も町設置のものもほぼ一緒ですか。

(森田総合政策部長)

大体、10日から2週間くらいの録画機能があって、ハードディスクで上書き書き換えですので、古い分から消えていくという感じになっています。

(武田町長)

教育委員会から別に、ここなんか子どもらの情報によると、「変な人が出る」と子どもら皆言っているから、そこ付けてほしいというのはいけますか。

(森田総合政策部長)

前ね、平石の方のお話も聞きまして、平石、まあ1か所、今・・・

(武田町長)

平石ゼロですね。

(森田総合政策部長)

町設置で1か所付いています。広域農道のトンネルの入口のところに1か所付けています。

(内堀委員)

これは行政だけの話ではないと思うんですけど、昔から疑問に思っているのは、我々、教育委員会なので基本的には、今は小さいお子さんから中学生までの部分を管轄している部署ですよ。そこで、例えば富田林管轄で事件があったときに、別に誰がやったとかどうのこうの、どこが被害者だとか公開はする必要はないんだけど、余程のことがない限り公開はされていないという現実があると思うんです。昔に比べれば今はわりとそういうのは早い目に警察の方から学校長宛に情報が来て、学校長の文書で保護者宛に来るようになりましたけど、もう少し差し支えない程度で警察が知っている情報というのを、我々直接でなくてもいいんですけど、例えば行政に何か伝えてもらえるような環境が整わないかなというの正直あります。

(武田町長)

捜査上の案件は言わないです。例えば夏になったら、芸大生が強制わいせつで追いかけてまわされたりで、あるいはギュッと抱きしめられたりしている。

(内堀委員)

だから、注意しなさいとはならないんですね。余程のことがない限りは

(武田町長)

注意しなさいというのは、大学の方に、大学の方からも学生の方にという形。

(安居委員長)

コンビニエンスストアというのは河南町にたくさんあります。その辺りで、民間のテレビカメラね、そういうのはたくさんあるんですか。

(武田町長)

あります。

(安居委員長)

事件というのは、よくコンビニから誘拐されたとか連れて行かれたとかいうのが多いみたい。その足取りがね。

(内堀委員)

警察はある程度把握しているのかもしれませんが。

(武田町長)

していますよ。

(内堀委員)

先程の例じゃなくてその前の例で、うちの前でたまたま事故があって、事故の状況が読み取れないので、ちょっとカメラを見たらおそらく角度的に写っているかと思うので、情報公開してもらえませんかと言って警察が来て、見られたことがあります。

(武田町長)

中学生が当て逃げされたことあるでしょ。関電の前で。あのときでも周辺のコンビニ全部、警察が調べてくれました。

(内堀委員)

当然地区で付けるのが一つですし、町の予算使って町の費用でカメラ付けるのも良しですし、ケースバイケースですけど、住民の方々、あるいは企業の方々、そういうちょっとした箇所からめておられる方も、促せば協力していただける方々というのはもっともっと増えるのかなと。だから、今こうして予算を組んでいただいてこうしてやっていますけど、そういう呼びかけもあっていいのかなと思ってますね。

(森田総合政策部長)

今、お配りさせてもらって、㊫と書いてますけど、まあ、ここで見ていただいて、持って帰っていただいても結構なんですけど、一般に出さないでいただきたい。

①から㊫までが27年度に設置した町のカメラということです。この中のカメラにも質がありまして、夜でも映るようにしているのがですね、①番と③番と④番と⑦番は赤外線の投射機を付けています。

(内堀委員)

これはナンバープレートまで読み取れる？

(森田総合政策部長)

いや、我々も見たことがありませんので。警察に渡して、警察が解析して捜査をやるので、一応ナンバープレートくらいまで見えるのかなとは思っていますけど。実際の画面は見たことはありません。

(新田教育長)

設置者として一回見ておいてもらいたいと思います。精度と情報ぐらいね。

(内堀委員)

今の時代、1年で恐らく質が変わっているのかなと思いますよね。携帯でも変わる度にカメラ良くなっていますからね。

(新田教育長)

質問させてもらったのは、まず話の中で出ましたように、教育委員会として何か設置の場所の要望等があれば教えてほしいとおっしゃっていただいたんですけども、設置基準も場所も今付いている場所もわからないままであれば、そういうお話も出来ないのかなということで、委員の皆さんにこの情報までは知ってもらいたかったというものです。

(武田町長)

子どもの安全でしょ。誰かにいたずらされたり、あるいは拉致されたりというのは最も注意しなければいけない。あとは交通事故もこれでわかるし、それから不法投棄も。不法投棄までなか

なかカメラ回りませんけどね。山奥へ付けないといけないから。そんな山奥へ付けるんだったら人のいるこっちへ先につけてくれと言われますから。優先順位としてはちょっと後になると思いますが、そういう人の目が届かないところ程カメラの値打ちが出るので、夜とか。やっぱりなかなか予算をずっと取り続けられないといけない。

そのうちに古いところ付けたのが傷んでそれを更新していかないといけないという追っかけごっこになると思いますけど。

(森田総合政策部長)

ある程度付けていっているんですけども、片っ方方向しか撮ってないところもありますし。

(内堀委員)

⑥は寺田かですか。

(森田総合政策部長)

⑥は事故起こったところです。寺田の交差点。

(新田教育長)

関電から出てきたところ。

(内堀委員)

関電のあそこ付いているんですか。

(森田総合政策部長)

関電のところには付けたんです。

(新田教育長)

この10は27年度で付いた分？

(森田総合政策部長)

そうです。

(新田教育長)

28年度はまだですか。

(森田総合政策部長)

これから付けます。ほぼ場所を決めて、今工事発注しています。

(行待委員)

できれば子どもが集まる公園に付けていただければ。公園で事故が多いし。

(森田総合政策部長)

大宝は、今年の13台というのが公園なんか付けていただけるんです。

(行待委員)

結構、親御さんが付いていってない子どもが多いので。大人の目がないので、なにか抑止力になるような、公園から連れて行かれる機会も多いので。

(森田総合政策部長)

旧村の公園でしたら、中村公園にはもう既に付いていますので、一応、台数は多分1台か2台だと思いますけども。

(武田町長)

中村公園はね、物置を蹴飛ばされてドアを何回も潰されました。しかしカメラ付けたらピタッと止まりました。

(内堀委員)

まあ、それでもね、コンビニなんか絶対付いてるというのがわかっていても、それでも強盗入る人はいますしね。

(安居委員長)

白木小学校の跡地の利用ということは進んでいるのでしょうか。

(森田総合政策部長)

いや、まだ具体的に検討というのは全く手は付けておりません。教育環境ミーティングでもお話しさせていただいて、地域の方々それと校区の方々を含めてですね、すごくその辺は関心が高いというふうに認識をしております、まずは意見集約というか意見の対話を29年度から進めていきたいというふうに考えておまして、今回は、町の方から青写真はこれですよと最初からお見せするという形を取らないで、ミーティングをしながら、その中からひとつどういう使い方がいいのかなのを検討していきたいと、そのようなスケジュールを考えておまして、すぐに来年から何かに取り掛かるというようなことはちょっと難しいかなと考えております。

(安居委員長)

廃校になった跡を利用して成功した、全国的に見て成功した地域とか、神戸の方にそこの学校かちょっとわからないですけど、今発展しているという、そういう事例があるというのをテレビで紹介していたような気がするんですけど、全国的に小学校の跡地を利用して成功しているような事例があったら、研究してみられたら。勉強に行ってもいいしね、いいんじゃないかなと思うんですけど。

(森田総合政策部長)

小学校の廃校跡というのは全国にいっぱいありましてね、その中でいろんなことをやっておられます。その中でレストランをやって、民間の人が来て経営は自分らですとか。あと、そこで宿泊ができるような、そういうようなことをやっているとか。どこまで成功しているかという段階があるのかなと思うんですけど。

廃校全部を専門学校にするなどいろいろありまして、そのどれが白木小学校の跡の形として、地域、そして河南町として良い使い方なのかなというのを研究したいと思いますので、我々に情報いただければ、ひとつ勉強の材料にしたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

(武田町長)

神戸市みたいな、そんなもの日帰りできるんだから。今日、終わってからでも。

(内堀委員)

我々も連れて行ってくださいよ。日帰りで十分。

レストランしているとかそういう企業はちょっと外していただいて、できたら学校法人、あるいは社会福祉法人、そういったものに特化したところを2、3件チョイスしていただいたところを、もし我々全員連れて行ってもらえるのであれば、それを基にこちらの地域性、あるいは道路環境、みんな白木を知っているわけですから、その中で、あそこだからこれができるけど、これはこっちには持ってこれない。あるいは、うちだからこそ逆にあこができてない部分が活用できるんじゃないか、とかいう部分も見られると思うので、一度何かの機会に、朝出て夕方帰って来れるくらいで十分なので。

(武田町長)

今日会議終わってから神戸市の教育委員会に電話して、こんな話聞いたんだけど、そちらの方の学校で成功例だと思われるところをいくつか紹介してくれと言って、そこはマイクロバスを出

して、教育委員会全員とそれから白木の区長さんとか、何人か一緒に乗せて行ったらどうですか。

(森田総合政策部長)

いろんなことを情報収集すると。それはネットも今ありますけども、やはり見るというのが番大きな視点ですので、考えます。

(内堀委員)

お願いします。

○案件（２）河南町公共施設総合管理計画（案）について

(資料２「河南町公共施設総合管理計画（案）」について、森田総合政策部長が説明。)

５ 質疑等

(武田町長)

どちらかと言いますと、この人口面に対応するダウンサイジング。そういう潜在的な方針でいかなないとやっぱり厳しいというか、生き残りは。全国いろんな自治体でそれにどれだけ踏ん切りを付けられるかというところでまず選別されると思います。そこで、いろんな意見を聞いて財政的などころは。かと言って全部潰していくという訳にはいかない。

幸いに河南町は公共施設の耐震化、特に中学校、小学校また幼稚園などの耐震化を年次的にしてきましたので。まだ全国にはそれすらできてないところもあるし。庁舎も今のところ立派な庁舎が建っている。今全国的には熊本地震の益城の市役所が潰れたのを教訓に、近隣でも富田林市役所の建て替えの問題とか富田林病院もあります。その辺り、河南町はそこに使うお金を他に使えます。

(内堀委員)

全てにおいてお金はもちろんかかる訳ですし、やっぱり目指すは財源確保じゃないですか。企業誘致、あるいは企業誘致をすべき土地の確保であったり、あるいは敢えて地域性をみた現代版の農地の、まあ、たまにテレビでもやっているように、例えば「田舎に住もう」じゃないですけど、そういう方々が来やすいような。例えば今ある環境の田んぼのまま使ってくれというのはなかなかやっぱり使いにくい。人の田んぼを歩かないと自分の田んぼに行けないとかいうのもある。例えば、出来る、出来ないは別にして、町が施設を借りる、また農地を借りる。で、その施設が窓口となって、地域の方々に「住んで田んぼをしませんか」みたいなのを一つの案として考えていく。それでも一つの財源の確保になるし、建物の家賃収入にもプラスアルファにも、もちろんその持っておられる所有の方にもなるし、町の財源の一部にもなるのかなと。

何か建てて何かをしようというのは結構大変なことなので、基本的には土地を提供する、あるいは農地を使って何かを考えてもらうという部分で、行き着くところはやっぱり財源を確保しないと。前にも話ありましたが、例えば住民を増やすにしても、じゃあどこに造成する土地があるのか。もちろん、それも一つの財源の確保のブレーキになっていますし。

だから５年、１０年後じゃなくて、今ここ数年の間に何かできる財源の確保という焦点を当てて考えていけば、それが最終的にはこの子ども達、たくさんの方々がこちらに住んでいただく、あるいは子どもも増えるし、もちろんそれも財源の確保につながっていくということでいけば、ちょっと株式会社の感覚で歳入の方を考えていかなないと、５０年後、１００年後となってきたときには、なかなか厳しいものがあるのかなという気もしなくはないですね。

(武田町長)

兆しは持っているんですよ。さっきの最初にご説明しましたデータで、0歳から14歳まで6人増えているけど、15歳から64歳までは減っているんです。それは、労働人口の転出が多い。それはやっぱり、河南町内に働き場所が少ないというものが表れ出ています。

(内堀委員)

さっき資料としては飛ばされたんですけど、ちょっとそこを教えてもらっていいですか。この、人口の増減ありましたね。

(森田総合政策部長)

8、9ページですか。

(内堀委員)

そうです。例えば65歳以上が増えていきますよね。これは、単に年齢が加算しているというだけのことですか。

(森田総合政策部長)

平均寿命がどんどん伸びています。医療も発達してきているので、65歳以上のお年寄りがどんどん増えると。まだ増えていくと。

(内堀委員)

これは新しく増えているのではなくて、例えば河南町で中学校一つですから、たまたま人数が多い年と、少なくなってくる時代と、また増えてくる時代と・・・

(森田総合政策部長)

今からどんどん増えていくというか、亡くなるよりも65歳になる人の方が多いんですよ。

(内堀委員)

新たな転入者とか、新たな転出者とかではない訳ですね。

(森田総合政策部長)

そうです。あとは、ブルーのラインとというのが子どもです。これは、もうどんどん減っていく。15歳から64歳までがこのオレンジの線で、減ってきていると。

今まで河南町の人口はどういうところで維持してきたかというところ、平成12年から17年までは、高齢者の人口が増えて人口がちょっと増えただけ。次に17から22までは、高齢者の人口は増えているんだけど子どもと生産年齢人口が減っていると。これが増田レポートで言うと、人口の第2段階の減少時代。老人も減るとというのが第3段階。河南町は第2段階で、何年かすると老人の方も減ってくるかもわかりません。どうしても生産年齢人口が減っていますので、パイが小さいのでどんどんそこで減っていくということで、だから生産年齢人口と小さい子どもをなんとか呼び戻したいというのが、この・・・

(内堀委員)

例えば、単に子ども達が住み良いまちづくりを河南町が推進します。当然、その一時はそういう方々がたくさん来るけど、あんまりたくさん来ると、学校がたくさん必要になって、その方々が今後また年を取って高齢化になってきたら、また同じ現象を繰り返してしまうということになりかねないかなというふうには思いますから、やっぱりトータル的なことを見ていけば、あまり強烈に子ども達に対する施策を推進するよりは、均等的な、働き手にはベッドタウン的な感覚もあり、子ども達も学校で勉強しやすい環境にもあり、高齢者が住み良いまちづくりというのも一つ一つ進めないと、また同じことの繰り返しみたいになってしまうという気がしますね。

結果的にやっぱり、人を増やすイコール何かは当然、それに付随して負の方もあつてから、いろいろな財源の確保をしていただければ、学校施設もどんどん良くなりますし、耐用年数を気にせず財源確保していただければ、学校経費くださいという要望も出しやすいのかなと思いますけど。

(森田総合政策部長)

ある一定の、最低レベルは当然ありますね。そこの中からどこに重点を置いてやっていくかというのは施策の取捨選択だと思うんですけども、その最低一定レベルのところは確保しつつ、重点的に子どもさんとかそういうところに今重点を置いているという、そういうふうにご理解いただけたら。

当然、バランス良く全ての人に、事業というのは税の再配分ですので、全ての人が恩恵を蒙るという形にはしていきたいのですが、そこにちょっと凸凹が出ていくというのは時代の背景もありましょうし、今後のまちづくりの方針もありますので、そこら辺はそういうところを見ながら施策を選択して、町長を筆頭にやっているということでございます。

(内堀委員)

意外と結婚されても河南町の女性の方は結婚されても河南町に住んでおられる方が非常に多い・・・

(森田総合政策部長)

先ほどの町長の新聞記事ありましたね。あれの2ページ目を見ていただいたら、子どもさんの数が増えているんです。男女とも。で、生産年齢人口のところを見ていただいたら、男はガタッと減っているんですが女の子は二人増えているんです。

(武田町長)

今、近居同居補助やっているでしょ。あれ今年6件くらい？

(森田総合政策部長)

6件の補助をしました。今もう7件目がきていまして、相談入れると8件くらいあるんですよ。

(武田町長)

家を新しく住むのに、河南町内に建てたら100万円。リフォームだったら50万円

(森田総合政策部長)

三世代住宅で改修して、4件くらい100万円もらっていただいています。

(内堀委員)

でも、学校の統合あるいは幼稚園もそうですね。また、通学バスが出るかと思いますが、それに関しても、あるいは歳出が増えるというのが一方でありますよね。だから、循環バスも学校の通学バスも何かうまく活用が出来る方向性もひとつ議題となってもいいのかなとは思いますが、だから、町の車、当然6時、7時、8時にどれだけのカナちゃんバスを有効に使っている方が何人いるのか、あるいはカナちゃんの一部を通学バスに使えないかとかいうのも、今後検討していく部分であるのかなと。

(武田町長)

今、子ども達がこの役場の前から帰りによく乗っていますよ。今までだったらお母さんが迎えに来てたけど、お母さん迎えに来なくても、役場の前に屯してバスを待っています。

(内堀委員)

帰りはバラバラだからね。行きがどうしても集中します。

(武田町長)

行きもその需要があるだろうと1時間早くしたんです。8時スタートを7時にして。

(内堀委員)

小学校、勝手にお金払って乗ってこいという感じは、学校的にダメなんですか。

(新田教育長)

小学校は、徒歩5分の範囲には大丈夫でしょう。

(内堀委員)

徒歩の範囲は乗っていいんですか？

(新田教育長)

いや、徒歩の範囲が2キロ程度ですから、徒歩として別に問題はない距離なのかなと。4キロ5キロというところは今ないでしょう。

(行待委員)

さくら坂とか、大宝とかはどうですか。

(新田教育長)

乗っていますよ。内堀委員がおっしゃたように、スクールバスとカナちゃんバス、そうすると今後更に増えてくるんで、これはどこかで、何か・・・

(内堀委員)

ある意味、世代間交流のできるのが、そのバスの中であってほしい。「どこまで帰るの？」とかいう些細な会話が、最終的には防犯にもつながるのかなと思いますし、やっぱり世代間交流のできる町であってほしいと思います。

5 閉会

(武田町長)

では今日はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。